

英勲（齊藤酒造）

18 世紀後半、齊藤家は伏見に着物や衣料品の井筒屋伊兵衛という名の商店を設立した。蒸気機関車が出現する前、京都への旅は船で行われていたため、河岸の場所は旅行者へ商品やお土産を売るのに理想的だった。しかし、1889 年には東海道本線が建設され、店舗への交通が減少したため、1895 年に 9 代目が日本酒の製造に商売を切り替えた。それ以来、齊藤酒造は高品質の伏見の日本酒を生産してきた。

第二次世界大戦までの間、伏見の日本酒で使用されていた主な日本酒米は、京都府でしか栽培されていない栽培困難な穀物の品種、祝だった。1990 年代初頭までに、祝品種はほとんど使用されなくなったが、齊藤酒造はその再導入を先駆け、大成功を収めた。地元の他の蔵元もそれに追随した。

祝米は発酵過程ですぐに溶けて使用が難しくなるが、同社の醸造者は技術的な問題を克服し、非常に繊細で洗練された日本酒の生産が可能となった。

齊藤酒造の主力商品は「英勲」と呼ばれている。最初は柳政宗と大鷹という銘柄で販売されていたが、大正天皇（1879～1926）が皇位を継承した 3 年後、1915 年に行われた即位の礼を記念し、改名された。名前に使用される漢字は、「傑出した、英雄的な」を意味する英と、9 代目当主の戒名から取った勲である。